

令和2年度 福岡市立 [東光中] 学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
○だれ一人取り残さない学校 ○情報機器を適切に使用することができ、主体的に探究する生徒 ○情報機器を適切に使用することができ、望ましい生徒の活動を引き出す教員		物理的非接触型の『学び合い』の方法を工夫し、だれ一人取り残さない授業を実践する。	ICTの効果的な利用法を具現化する。
		主体的に探究している生徒を増やす。	生徒が主体的に探究しているようすの確かな見取り方を設定し、生徒の支援を充実させる。
		自己のスケジュールを管理できる生徒を増やす。	スケジュール管理の手法とともに、目的を生徒に認識させることで、成果につなげる。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
情報機器を適切に使用することができる教員を増やす	機器を用いて情報交換や共有ができる職員が8割以上になる	・情報機器を用いて情報の交換や共有ができる教員は9割以上である。	
	教室設置のICT機器を授業で使用する職員が8割以上になる	・教室設置のICT機器を授業で使用する職員は9割程度である。	
	Classroomで授業を展開できる職員が5割以上になる	・Classroomで授業を展開できる職員は7割を超える程度である。	
主体的に探究している生徒を増やす	課題の解決に向けて取り組む生徒が7割以上になる	・課題の解決に向けて取り組む生徒は、場面ごとにみると取り組み状況に差はあるが、課題解決に向けて取り組みを行わない生徒は皆無である。	
	学習活動を楽しみだと捉える生徒が6割以上になる	・学習活動を楽しみだと捉える生徒は、様々な活動を平均すると5割程度である。	
	課題への取り組み方を工夫する生徒が5割以上になる	・主体的に課題への取り組み方を工夫できている生徒は2～3割にとどまる。	
自己のスケジュールを管理できる生徒を増やす	一週間のまとまりで振り返りを書ける生徒が6割以上になる	・一週間のまとまりで振り返りを書ける生徒は5割程度である。	
	振り返りを活かして計画を改善できる生徒が4割以上になる	・振り返りを計画改善に活かせる生徒は、1年生では2割程度だが、2年生で3～4割となり、3年生では6割を超える。	
	自己の改善に向かう計画を立てる生徒が5割以上になる	・自己の改善に向かう計画を立てることができる生徒は、1年生では2割程度だが、学年が上がると8割程度の生徒ができるようになる。	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<p>1 東光中学校は、清掃が行き届いてきれいな環境であると思う。 3 東光中学校は、家庭・地域等へ情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりに努力していると思う。 6 東光中学校の生徒は、わかる・楽しい授業づくりに協力ができていると思う。 などの10項目について、よくあてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・まったくあてはまらないという4段階のアンケート及び自由記述による評価をいただいたところ、全てにおいて、よくあてはまる、あるいは、ややあてはまるという評価を得た。 3番の項目の評価ポイントが最高であり、6番の項目の評価ポイントが中では最低だった。</p>			